

学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-068

名前：西原 陽祐

学会名：第60回 日本赤十字社医学会総会

開催場所：仙台国際センター

開催期間：2024年10月17日～10月18日

発表なしのため、1～3を省きます。

4. 学会参加の感想

今回、日本赤十字社医学会総会に初めて参加し、全国の専門家や研究者が一堂に会する場の雰囲気圧倒されました。当初、学会は研究発表が中心だと考えていたのですが、実際には、最新の医療技術やテクノロジーに観て触れることができる場所であり、その内容は想像以上でした。

まず驚かされたのは手術支援ロボット「ダヴィンチ」を実際に操作できたことです。普段、触れる機会がないはずのダヴィンチを操作することができ、その操作性や技術の高さに感銘を受けました。初めての体験にもかかわらず、細かい作業が可能で、機械の細部にまで臨床的な工夫がなされているなど感じました。また学会では他にも、AIを利用した技術や災害などで活躍するトイレ問題を解決する製品、さらには医療従事者の仮眠ボックスなども展示されていました。トイレ製品や仮眠ボックスは目立たないながらも重要なものであり、様々な観点から考えられているなど感心しました。

研究発表では、特に放射線に関する内容を中心に拝見しました。多くの発表が、特定の症例に対する様々な撮影方法についてのものでした。各病院が使用している機器による撮影方法やその結果が発表され、発表後の質疑応答では多くの質問が飛び交っていました。私も多くの疑問を抱きましたが、今回は勇気が出ず質問することができませんでした。また、専門的な内容や略語が多く、まだ理解できない部分が多くありました。一方で、看護師の方による発表では、検査や治療時の利便性向上に関する工夫が紹介されていました。特に、検査・治療道具の配置を工夫することで、作業がスムーズになり、間違いなく検査を行えるという点が強調された発表でした。日々進歩する医療の場で最新技術や難しい研究も重要ですが、日々の工夫が現場で大きな成果を生むことに改めて気づかされました。

今回学会参加を通じて、最新医療の現場や、医療現場における様々な課題を認識することができました。また、発表後の質疑応答の重要性を実感し、他の病院での取り組みを取り入れて医療の質を向上させるための重要な場であることを改めて感じました。今後、就職後には積極的な質問を行い、学会発表に挑戦したいと思いました。貴重な体験であり、日々の勉強のモチベーション向上にも繋がりました。

この度は、国内学会への参加にあたり、平田先生には引率していただき、また、中村先生には専門科目実験の日程を調整などご尽力いただきました。また、多くの方々のご支援を賜り、深く感謝申し上げます。この場を借りてお礼申し上げます。

6. 現地参加がわかる写真

